

基本施策 1 時代を切り拓く力の育成
取組の柱① 社会的・職業的自立に必要な能力を育成する

取組 1	時代に応じたキャリア教育の充実	担当所属	義務教育課 高校教育課 特別支援教育課
30年度個別評価	「達成」・「進捗」 9項目 / 9		
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績	
(1) 小・中・高校を通して身に付けさせたい力等を示した「群馬のキャリア教育」を作成・改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「群馬のキャリア教育」の普及・推進 <ul style="list-style-type: none"> ○県内指定地区の研究成果を生かし、研究内容やキャリア教育の視点を取り入れた授業等の実践例を示したキャリア教育ガイドブックの普及・推進 		進捗
(2) 小・中学校 義務教育9年間を通じたキャリア教育を学校と地域が一体となって推進するための組織及び計画について、指定地域において実践研究を行い、全県に普及する。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育推進事業では、新規に群馬県キャリア教育研究大会を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○特別活動やキャリア教育に関する実践発表及び有識者による講義を通して、キャリア教育の在り方についての理解を深め、各学校・地域の実情にあったキャリア教育の取組を、群馬県小学校特別活動研究部会、群馬県中学校特別活動研究部会、群馬県進路指導研究部会と連携して推進した。 ・期日：平成30年10月30日（火） ・場所：群馬県総合教育センター ・講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 安部 恭子 氏 ・参加人数：127名 		進捗
(3) 高等学校 ① 高校でのキャリア教育をより一層組織的・体系的に行うため、キャリア教育担当教員の情報交換や生徒の卒業後の進路調査・分析等を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育・進路指導研究協議会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ○第1回（5月）：キャリア教育に関わるインターンシップの推進及びキャリア教育の視点に立った教科指導、参加者108名 ○第2回（10月）：キャリア教育推進のためのプログラム開発、参加者69名 		進捗
② インターンシップについて、その目的、内容を明確化・具体化し産業界等と連携して推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・Gワークチャレンジ・高校生インターンシップ推進事業において、インターンシップに参加する生徒数の増加に向けた取組を推進 <ul style="list-style-type: none"> ○インターンシップ推進委員会：2回（10月、1月） ○Gワークチャレンジ推進フォーラム：1回（1月） ○インターンシップ・キックオフ講座：11校13回22時間 		進捗
③ 企業や大学等の研究機関、行政機関、医療機関等で普通科高校の生徒を対象としたインターンシップを実施し、生徒の望ましい勤労観・職業観を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・普通科を含む全ての県立高校等で、高校生等インターンシップ推進事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○就業体験参加生徒：6,808名（普通科：2,164名） ○実施事業所数：2,243事業所（普通科：861事業所） 		進捗
(4) 特別支援学校 ① 小・中学部において、基本的な生活習慣や生活に結び付いた具体的な指導に取り組み、キャリア教育を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に係る研修会を実施（計57回） <ul style="list-style-type: none"> ○実施校数：県立特別支援学校22校 ○各学校において、キャリア教育全体計画に基づき発達段階に応じたキャリア教育を実施。 		進捗
② 高等部1年生の時から生徒や保護者への進学・就職に係る啓発を図り、必要に応じて中学校、特別支援学校中学部段階から進路指導の機会を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生進路ガイダンス（計30回）を生徒と保護者向けに実施 <ul style="list-style-type: none"> ○実施校数：高等部を設置する県立特別支援学校（高等特別支援学校を含む。）18校 		進捗
③ 関係機関の協力を得ながら、地域の自治体や企業への働きかけを強化し、身近な地域において生徒が就業体験しやすい環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援員による就労支援を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○知的特別支援学校9校：5名配置 ○就業体験実習の受入先の開拓：416社 ○雇用先の確保 		進捗
④ 高等部の生徒の特性や職業教育、就業体験について、企業関係者の理解を深めるための取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業採用担当者学校見学会を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○高等部を設置する県立特別支援学校（高等特別支援学校を含む。）15校：25回 ○参加者数：350社の461名 		進捗

<p>(課題)</p> <p>(1) 学校の教育活動全体を通じてコミュニケーション能力等、社会的・職業的自立に向けた基盤を形成することの重要性を十分意識し、職業観・勤労観の育成に結びつくよう、職場体験活動やインターンシップ（就業体験）を効果的に実施すること。</p> <p>(2) 普通科高校において、大学等の先にある社会を意識させること。</p>	<p>成果</p> <p>[小・中学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> 群馬県キャリア教育研究大会を各種団体と共催で実施し、小中学校の実践研究成果の発表および有識者による講義により、キャリア教育の在り方を全県へ周知したため、各学校におけるキャリア教育全体計画及び年間指導計画の作成率が上昇し、キャリア教育の取組の充実につながった。 <p>[高等学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> Gワークチャレンジ・高校生インターンシップ推進における就業体験を通して、各学校の実態に応じて勤労観・職業観の育成を図り、働くことの意義等について考えるとともに、自身の進路と向き合い、社会について意識するきっかけとなった。 <p>[特別支援学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路に関する指導について、発達段階に応じた指導を実施できた。 進路に関する指導を通して、児童生徒の就労に対する意欲向上や保護者の関心の高まりが見られ、就業体験実習等における取組が充実した。 農福連携に係る農業実習を開始し、4校7名が参加した。
---	--

達成目標		基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 小・中学校におけるキャリア教育全体計画の作成状況 (%)	小	77.0 (H25)	83.2	89.3	94.5	97.4	100	100	100	【目標】全校、全児童・生徒を目指して設定。(以下の目標値100%も同様)
	中	79.3 (H25)	85.2	92.1	96.9	98.8	100	100	100	
(2) 将来就きたい仕事や夢について児童に考えさせる指導をしている小学校教員の割合 (%)		70.0 (H25)	72.0	77.7	77.0	78.7	83.9	46.3	100	
(3) 3日以上職場体験を実施している中学校の割合 (%)		74.0 (H24)	72.5	72.4	71.0	71.0	69.3	▲42.7	85	【目標】実施日数が3日未満の学校を基準年度から半減させた場合の数値を設定。
		参考値 70.4 (H25)								
(4) 公立高校全日制における高校3年間でインターンシップに参加したことがある生徒の割合 (%)		34.6 (H24)	31.8	33.0	33.2	37.9	41.4	44.2	50	【目標】基準年度における学校の現状や受入企業等の状況を踏まえて設定。
		参考値 33.9 (H25)								

<p>今後の課題</p> <p>[小・中学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校において、小中学校が連携して、計画的、組織的にキャリア教育に取り組むことができる年間指導計画の作成を推進すること。 <p>[高等学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の望ましい職業観・勤労観及び主体的に進路を選択する能力を育成するため、引き続き、インターンシップを推進すること。普通科生徒の参加率が課題である。 <p>[特別支援学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者に対する企業の理解促進を図り、雇用先を拡大すること。 就職に係るマッチングを充実させること。 就労後の職業定着のためのフォローアップを充実させること。 	<p>平成31年度/令和元年度の方向</p> <p>[小・中学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度より県内4中学校校区を「キャリア教育推進地域」に指定し、義務教育9年間を通して児童生徒の社会的・職業的自立に必要な能力の育成の研究を進めるとともに、その成果をまとめたキャリア教育ガイドブック「ぐんまのキャリア教育」を作成し、全県に配布してキャリア教育を推進してきた。その結果、県内全ての小・中学校においてキャリア全体計画の作成を進めることができた。今後は、これまで各教科等の中で行ってきた学習活動を、キャリア教育の視点から見直し、各地域、各校の実情をふまえた、年間指導計画の作成を推進することで、各教科等の特質に応じたキャリア教育が一層充実できるようにする。 <p>[高等学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> Gワークチャレンジ・高校生インターンシップ推進事業の内容を充実・発展させるため、従来の就業体験の推進に加え、高校生の就業体験を充実させるための取組について有識者が協議・検討を行う「インターンシップ推進委員会」や、就業体験の成果を企業関係者や多くの生徒、教員が共有するための「Gワークチャレンジ推進フォーラム」を継続して開催する。 「群馬県版インターンシッププログラム」の効果的な運用について検討を進める。 <p>[特別支援学校]</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業採用担当者学校見学会における「情報交換会」を継続して実施する。 「特別支援学校を活用した週末活動支援」（障害政策課）を支援する。 労働政策課、障害政策課、特別支援教育課の3課共催による「グッドジョブフェア」を開催し、障害者雇用に係る理解を啓発する。 農業分野の作業学習に関する環境を整備する。
---	--

基本施策1 時代を切り拓く力の育成
取組の柱① 社会的・職業的自立に必要な能力を育成する

取組2	より実践的な職業教育の推進	担当所属	高校教育課 管理課
30年度個別評価		「達成」・「進捗」 8項目/8	
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の実績	
<p>(1) 専門高校と地域や産業界等が連携して実施する「次代を担う職業人材育成」を一層推進する。 ① 人材育成委員会において、指定校の取組内容の成果と課題を明確にする。</p>		<p>・各人材育成委員会において、取組内容を見直し、今後の方向性を検討 ○開催回数：農業：2回 工業：1回 商業：1回 福祉：2回</p>	
<p>② 指定校における取組内容の成果を普及し、すべての専門高校において、技術者等による学校での技術指導や現場実習、職場研修等を一層充実する。</p>		<p>・農、工、商の各指定校において、技術者等による専門的な指導を充実 ○農業：1校、591名、29時間、実技指導・講演 ○工業：1校、191名、14時間、実技指導 ○商業：1校、160名、5時間、実技指導・講演 ・指定校の成果を報告書にまとめ、校長会や各部会の研修会等で報告する等により周知</p>	
<p>③ 工業系高校において、熟練技能者による技術指導をより充実する。</p>		<p>・工業系高校において、熟練技能者による技術指導を実施 ○延べ381時間</p>	
<p>④ 企業・研究機関等から、豊かな経験と知識をもつ人材を講師として招へいする。</p>		<p>・専門高校17校において招へい ○延べ432時間</p>	
<p>⑤ 介護職員初任者研修の事業を実施する学校と介護福祉士国家試験受験可能校を対象に、医師、看護師等を社会人講師として積極的に招へいする。</p>		<p>・7校において社会人講師を招へい ○延べ636時間</p>	
<p>(2) 企業等との連携により、産業現場等での系統的なインターンシップを実施し、生徒の専門分野における実践的な知識・技術の体得を進めるとともに、望ましい勤労観・職業観を育成する。</p>		<p>・高校生等インターンシップ推進事業により、長期インターンシップを推進 ○実施校：35校 ○参加者：880名</p>	
<p>(3) 高校と大学の連携により生徒の専門分野への学習意欲を高め、個々の興味・関心をもつ学問分野への理解を一層深めるとともに、主体的な進路選択能力を育成する。</p>		<p>・農、工、商、福祉の各分野において、高大連携を推進 ○生徒・職員研修会、出前授業、大学訪問、研究活動や教材開発、福祉科職員指導者養成講座の開催</p>	
<p>(4) 基礎技術を学ぶ設備、先進技術を習得する設備及び農場等を維持する設備の更新及び修繕に努める。</p>		<p>・専門高校における実験実習に必要な設備を整備 ○整備費：300,155千円（30年度決算） ○設備：万能材料試験器、自動環境制御装置</p>	
<p>(課題)</p> <p>(1) 地域や産業界等との連携を図り、産業現場等におけるインターンシップの機会を積極的に設け、一層推進するとともに、受け入れる企業や学校の実態を考慮した上で長期間の実習を進めること。</p> <p>(2) 産業技術専門校や認定職業訓練校をはじめとする関係機関との連携を強化するとともに、専門的な技能を有する社会人講師等を活用し、職業教育を充実させること。</p> <p>(3) 産業教育設備を時代に応じたものに更新すること。</p>		<p>(成果)</p> <p>・インターンシップに参加した生徒は、学習への意欲を向上させ、就労の意義や仕事のやりがいを感じることができた。あわせて、大人の指導を受けながら仕事を完了する中で、自己有用感を育むことができた。</p> <p>・産業・教育連携若年者育成事業等により、産業技術専門校等の関係機関との連携を強化した。実践的な技術や技能を習得するとともに、キャリア教育の推進を図ることができた。</p> <p>・産業人材育成課との連携により、普通科高校における「ものづくりの魅力発見プロジェクト」を実施し、産業技術専門校と連携した取組を行うことができた。</p> <p>・実習の核となる産業教育設備の更新を進めた。</p>	

達成目標	基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 公立専門高校全日制における高校3年間でインターンシップに参加したことがある生徒の割合 (%)	69.5 (H24) ----- 参考値 64.6 (H25)	64.0	68.2	68.1	71.8	76.7	23.6	100	
(2) 全日制専門高校の新卒者の進路希望達成率(進路希望達成者/卒業者) (%)	98.6 (H24) ----- 参考値 98.8 (H25)	98.8	98.7	99.1	98.7	98.8	14.3	100	

今後の課題	平成31年度/令和元年度の方向
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ推進事業を系統的に実施すること。 ・ 指定校での成果を県内に普及させ、より効果的な取組としていくこと。 ・ 引き続き産業教育設備を更新すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤労観・職業観の育成をはじめ、社会が期待する力を育むことができるよう、県内の経済団体及び企業や大学、県健康福祉部及び産業経済部との連携を強化し、インターンシップを更に推進する。 ・ 現場の状況を把握し、優先順位をつけて産業教育設備を更新することで、実習に支障が生じないようにする。

基本施策1 時代を切り拓く力の育成
取組の柱① 社会的・職業的自立に必要な能力を育成する

取組3	特別な支援を必要とする生徒への就労支援の充実	担当所属	特別支援教育課 高校教育課 労働政策課	
30年度個別評価	「達成」・「進捗」	8項目/8		
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績		
<p>(1) 特別支援学校</p> <p>① 生徒及びその家族が生徒の卒業後の進路に対する意識を早い段階から高められるよう、高等部1年生の時から企業関係者や関係機関の協力を得ながら、進路指導の充実に努める。【取組1再掲】</p>		<ul style="list-style-type: none"> 1年生進路ガイダンス（計30回）を生徒と保護者に向けて実施 <ul style="list-style-type: none"> ○実施校数：高等部を設置する県立特別支援学校（高等特別支援学校を含む。）18校 		進捗
<p>② 生徒の特性や職業教育、就業体験について、企業関係者の理解を深めるための取組を推進する。【取組1再掲】</p>		<ul style="list-style-type: none"> 企業採用担当者学校見学会を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○高等部を設置する県立特別支援学校（高等特別支援学校を含む。）13校：20回 ○参加者数：350社の461名 		進捗
<p>③ 関係機関の協力を得ながら、地域の自治体や企業への働きかけを強化し、身近な地域において生徒が就業体験しやすい環境を整備する。【取組1再掲】</p>		<ul style="list-style-type: none"> 就労支援員による就労支援を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○知的特別支援学校9校：5名配置 ○就業体験実習の受入先の開拓：416社 ○雇用先の確保 労働政策課員による企業訪問（群馬労働局、ハローワークとの協働による企業訪問を含む）及び職場開拓事業による企業訪問により就業先・実習先を開拓 <ul style="list-style-type: none"> ○訪問件数 労働政策課員による企業訪問：397件 職場開拓事業による企業訪問：3,620件 		進捗
<p>④ 在学中からの就労支援を強化するため、障害者就業・生活支援センターの利用登録を在学中から推進するなど、関係機関の支援を積極的に取り込んでいく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 移行支援会議を開催 <ul style="list-style-type: none"> ○高等部を設置する県立特別支援学校（高等特別支援学校を含む。）の卒業生について、関係機関との連携と調整 		進捗
<p>⑤ 新たな職域開拓を目指し、福祉・サービス等の職業教育を充実させ、専門コースや専攻科の設置を研究する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ハートフル介護人材育成研修を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○中部、西部、東部の3地域で4日間ずつ開催、体験型研修会を実施 ○参加者数：生徒45名、教員21名 		進捗
<p>⑥ 関係機関と連携し、特別支援学校卒業生の相談支援を充実させフォローアップを進める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 就労定着支援事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ○高等部を設置する県立特別支援学校（高等特別支援学校を含む。）14校で実施 ○実施件数：209件 		進捗
<p>(2) 高等学校</p> <p>① 特別な支援を必要とする生徒の進路希望、適性等を十分に把握した上で、高校と特別支援学校の進路指導担当者が協力して就労を進める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 公立高等学校等キャリア教育・進路指導研究協議会において、高校と特別支援学校の進路指導主事で就労に係る情報を共有 		進捗
<p>② 特別な支援を必要とする生徒について、個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、授業や進路指導の充実に努める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 学校訪問において、特別な支援を必要とする生徒について、個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、授業や進路指導を実施するよう、指導・助言を実施 		進捗

<p>(課題)</p> <p>(1) 一般就労（民間企業等への就職）につながる技能や意欲を一層向上させること。</p> <p>(2) 関係部局、関係機関の連携強化による一般就労につながる取組を一層推進すること。</p> <p>(3) 特別な支援を必要とする生徒の就労へ向けて、企業・地域等への理解を進める取組を充実させること。</p> <p>(4) 各地域において、地方自治体や企業での就業体験を充実させる学校の取組を一層推進すること。</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場開拓事業により、求人数1,507人、実習案件人数1,400人を開拓した。 ・特別支援学校高等部卒業生（H29年度卒業生）の一般就労率は、全国23位であった。 ・職場体験ファーストステップ受入機関を拡大することができた。 ・企業採用担当者学校見学会への参加企業が増加した。
---	--

達成目標	基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 県立特別支援学校高等部卒業生の一般就労率 (%)	35.5 (H24) (全国の平均27.7%) ----- 参考値 38.7 (H25) (全国の平均28.4%)	34.8 (全国の平均28.8%)	35.5 (全国の平均29.4%)	35.9 (全国の平均30.1%)	30.7 (全国の平均31.2%)	12月に数値公表になる	—	40	【目標】計画期間内に基準値+10%台を目指す。(以下、100%以外の%単位の目標は、特に記述が無い限り同様) 【参考】29年度実績値による進捗率：▲106.7%
(2) 就労支援員の就業体験先の新規開拓件数 (件)	228 (H24) ----- 参考値 278 (H25)	338 (170)	478 (354)	347 (236)	463 (192)	416 (286)	261.1	300	【目標】県内国公私立特別支援学校高等部3年生の在籍者数(約300名)を参考として設定。
(3) 介護人材育成研修会参加生徒数(年間の延べ人数)(名)	72 (H25)	71	53	30	42	45	▲150.0	90	【目標】知的高等特別支援学校4校(当時)で各2名増、他の高等部を設置する特別支援学校10校で各1名増、計18名増として設定。

<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業体験実習受入先の拡大を図ること。 ・障害者に対する企業の理解促進による雇用先の拡大を図ること。 ・新たな職域の開拓や生徒一人一人の実態と仕事内容のマッチングを充実させること。 ・生徒への就業先、実習先を開拓するため企業への働きかけを強化するとともに、就労意欲と可能性を持った生徒を一般就労に結びつける取組を強化すること。 	<p>平成31年度/令和元年度の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援員の増員により、就業体験実習先を開拓するとともに雇用先を確保する。 ・企業採用担当者学校見学会における「情報交換会」を実施する。 ・就労支援員による生徒の実態把握と仕事のマッチングを強化する。 ・職業教育に係る研修を充実させる。 ・関係機関との連携により、就職者の定着支援を実施し、マッチングから職場定着までの一貫した支援の実現を図る。 ・農業分野を導入している高等部の作業環境を整備する。
--	---

基本施策1 時代を切り拓く力の育成
取組の柱② 文化芸術教育と郷土に誇りをもてる学びを推進する

取組4	文化芸術や尾瀬学校等の郷土資源を活用した学びの推進	担当所属	義務教育課 高校教育課 文化振興課 自然環境課 (尾瀬保全推進室)	
30年度個別評価		「達成」・「進捗」	9項目/9	
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績		
(1) 小・中・高校生を対象とした群馬交響楽団の音楽教室により、本物のクラシック音楽との出会いの場を提供する。		<ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業までに「生のオーケストラ」を4回体験できる体制を維持 ○移動音楽教室（30年度は移動音楽教室第13次基本計画の1年次） 公演回数：76回、鑑賞校数：小・中・特支 計325校 ○高校音楽教室 公演回数：24回 ○鑑賞校数：26校 		進捗
【関連する取組】		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児移動音楽教室の実施 ○公演回数：17回 ・はじめての文化体験事業の実施 ○派遣回数：24回 		
(2) 地域の美術館・博物館で行われている展覧会の鑑賞や教育普及活動の学校教育での活用を促す。		<ul style="list-style-type: none"> ・県立美術館・博物館での企画展の開催 ○実施回数：延べ19回 ・ワークショップ等教育普及事業の実施 ○実施回数：ミュージアムスクール11回 サイエンスステーション48回他 		進捗
(3) 特色ある教育活動に取り組んでいる小・中学校の実践例を周知する。		<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会や研修会等において、文化財や年中行事、伝統芸能等の人的又は物的資源を活用した授業実践例の紹介 		進捗
(4) 郷土資料集を活用し、「道徳の時間」の指導の充実を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会や研修会等において、道徳郷土資料集「ぐんまの道徳」の年間指導計画への位置付けと活用を図るよう指示 		進捗
(5) 各教科の中で、上毛かるたをはじめとした郷土かるた等、郷土資源を活用した指導例を紹介する。		<ul style="list-style-type: none"> ・副読本『上毛かるた』で見つける群馬のすがた」販売 ○販売部数：1,725部 		進捗
(6) 尾瀬学校の学習プログラムの充実を図り、山小屋への宿泊を含め、市町村教育委員会や各学校への理解を進め、引率教員等を対象とした研修を引き続き開催する。		<ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬学習プログラムによる事前事後の充実したプログラムを実施 ○実施校数：131校 ・尾瀬学校に参加するにあたり学校から質問が多かった内容をまとめたQ&A形式の資料をWebに掲載し周知した。 		進捗
【関連する取組】		<ul style="list-style-type: none"> ・参加校の少ない市町村の校長会や教育委員会の訪問及び参加がない学校を個別訪問し、尾瀬学校等のPR活動を実施。 ○市町村校長会訪問：2回 学校個別訪問：12回 ・尾瀬学校実施率が低い地域の教職員向け研修会を開催。 		
(7) 環境教育に係る教科、科目等の優れた実践事例の蓄積と普及により、授業の改善・充実を図る。		<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育事例集26「みんなの環境私たちの実践」をまとめ、Webに掲載 		進捗
(8) 身近な環境資源を活用した環境教育を支援できる関係機関や外部人材を学校に紹介する。		<ul style="list-style-type: none"> ・各種実験機材を搭載した移動環境学習車「エコムーブ号」を活用し、環境学習サポーターが学校の授業において「動く環境教室」を実施 ○H30年度実施校数：80校（小76、中4） 		進捗
(9) 総合文化祭等の開催により、文化部活動の発表の場や生徒同士の交流の場を設け、本県の芸術・文化活動の一層の発展の基礎を作り、全国高等学校総合文化祭への積極的な取組を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> ・県高等学校総合文化祭を実施 ○H30年10月20日、参加部門数20部門 参加生徒数6,000人 ・全国高等学校総合文化祭長野大会に参加 ○H30年8月7日～11日、自然科学部門（物理）最優秀賞、新聞部門優良賞校、写真部門優秀賞、工業部門（協賛）第3位 		進捗

<p>(課題)</p> <p>(1) 児童生徒が、本物の文化芸術に触れる機会をより一層増やすこと。</p> <p>(2) 各教科等と結び付く地域学習や伝統文化教育を充実し、郷土を学ぶこと。</p> <p>(3) 本県が誇る自然保護の原点である尾瀬のよさを知り、自然やふるさとの学びを推進すること。</p> <p>(4) 身近な環境資源を活用した環境教育を推進すること。</p> <p>(5) 高校生の主体的な芸術活動等の場である文化部活動の質の向上を図ること。</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内の公立小中学校では、生のオーケストラの演奏を聴くことができ、児童生徒の音楽性の伸長に資することができた。 ・人気の高い巡回展を実施したり、地域の歴史文化とゆかりの深い展覧会を企画するなど、魅力ある企画展の実施に取り組んだ。 ・尾瀬学校の実施により、児童生徒の豊かな感性や自然保護への意識、さらには、ふるさとを愛する心を育むことができた。 ・県及び全国の総合文化祭の各部門における芸術文化活動等の交流を通して、文化部活動の質の向上に向けた取組や実践を行うことができた。
---	--

達成目標		基準値(年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率(%)	H30目標年度	備考
(1) ふるさと(地域の歴史、伝統や文化、自然等)のよさを生かした特色ある教育活動をしている小・中学校の割合(%)	小	96.9 (H25)	99.7	99.7	99.7	100.0	99.4	80.6	100 (小)	
	中	80.5 (H25)	86.4	91.6	91.5	91.4	95.7	77.9	100 (中)	
(2) 住んでいる地域の歴史や自然について関心がある小・中学生の割合(%)	小6	66.3 (H25)	63.0	69.7	69.0	63.8	64.1	▲16.1	80 (小6)	【目標】ふるさとのよさを生かした取組が全ての学校で行われ、ほぼ全ての児童生徒が関心を持てるようにするため。 【進捗分析】ふるさとのよさを生かした教育活動の実施は向上しているため、教育活動をより工夫する必要がある。
	中3	41.0 (H25)	50.2	50.7	46.2	43.7	44.7	9.5	80 (中3)	
(3) 尾瀬学校に参加している小・中学の人数(人)		11,224 (H24) ----- 参考値 11,561 157校 (H25)4 (H25)	11,449 156校	10,213 139校	9,495 133校	9,856 131校	9,179 131校	▲23.3	20,000	【目標】義務教育課程において、群馬の子どもたちが一度は尾瀬に行くための人数(※一学年あたりの人数)を設定。 【進捗分析】学校から尾瀬までの距離が遠く、時間上尾瀬学校の実施が困難であること、学校行事の精選の結果、地域の環境学習を優先していること等の要因で利用しない学校がある。
(4) 全国高等学校総合文化祭における入賞数		4 (H25)	10	3	4	4	4	0.0	6	【目標】芸術文化活動の向上を目指し、基準年度の1.5倍を設定した。 【進捗分析】過去3年間は同数の入賞数である。全国的な水準が向上しており、入賞が簡単ではなくなってきた。

<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動音楽教室で群馬交響楽団のよさを児童生徒に伝えていくとともに、鑑賞の機会が授業等でより活用できよう、演奏内容や各地区における開催場所を検討していくこと。 ・本県が誇る自然やふるさとのよさについての学びを推進するため、地域の自然資源を活用すること。 ・高校生の文化芸術活動等をより一層充実させ、質の向上を図るとともに、それぞれの活動状況等を周知すること。 	<p>平成31年度/令和元年度の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のニーズに合った演奏内容・開催場所となるよう運営協議会で再検討し、群馬交響楽団と連携を図りながら移動音楽教室の取組に反映していく。 ・群馬県の多様な自然を生かした学習の充実を図る。 ・県及び全国の高等学校総合文化祭において、文化芸術活動等の各種活動における積極的な取組を推進し、広く県民に紹介していく。
--	--

基本施策1 時代を切り拓く力の育成
取組の柱② 文化芸術教育と郷土に誇りをもてる学びを推進する

取組5	古代東国文化をはじめとした文化遺産を活用した学びの推進	担当所属	義務教育課 高校教育課 文化財保護課 世界遺産課 文化振興課
30年度個別評価	「達成」・「進捗」	9項目 / 9	
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績	
<p>(1) 古墳・遺跡等の身近な文化財や「富岡製糸場と絹産業遺産群」に触れる体験活動を、学校教育の中に導入する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 発掘調査成果や体験学習を学校教育に活用する方策を紹介する教員向けの専門講座を開催 ○参加人数：13人 「ふるさと群馬のたからもの」文化財の絵コンクールを開催 ○応募数：117校、1,098人(点) 学校キャラバンを実施 計20回(小学校20校) 	
【関連する取組】		<ul style="list-style-type: none"> 校旗を作ろうプロジェクトを実施 小学校58校が参加 	
<p>(2) 中学校歴史分野の授業において、身近な地域の文化財や歴史的遺産を取り上げる機会をより一層増やしていくために、「東国文化副読本」の活用努める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 中学1年生への副読本配布数：17,878部 「東国文化副読本モデル授業」(公開授業)の実施 ○実施箇所：沼田市立沼田中学校、草津町立草津中学校 ○指導主事会議において周知 ○参観者：合計36名 教員向けの埋蔵文化財専門講座を開催 ○参加人数：13人 	
【関連する取組】		<ul style="list-style-type: none"> 東国文化自由研究の募集(夏休み) ○応募点数：1,052点 東国文化ゆかりの地巡りの開催 ○実施期間：平成30年7月20日～平成30年12月24日 ○参加者：468人 	
<p>(3) 「富岡製糸場と絹産業遺産群」の社会科見学用副読本を作成・配布するなど、学校教育への活用を促し、郷土への誇りを育む。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 各種会議、研修会における依頼 ○郷土への誇りを育むため、年間指導計画に地域の文化遺産を活用する活動の位置付け ○平成26年度にデータで配付した指導資料「ぐんまを学ぼう」の活用 副読本「いってみよう！富岡製糸場と絹産業遺産群」を県内全小学校に配付(H27年度) 	
<p>(4) 長期休業を利用した群馬県立歴史博物館や群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館における企画展の見学、体験学習等への積極的な参加を促す。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 東国文化自由研究の募集(夏休み) ○応募点数：1,052点 埋蔵文化財調査センター発掘情報館で「夏休み親子宿題教室」を開催 ○近隣市町村の小学校にチラシを配布 ○4,966人が参加 	
<p>(5) 史跡上野国分寺跡の整備事業を進め、発掘調査成果等を広く情報発信するとともに、史跡観音山を含め、学校教育、生涯学習での一層の活用促進を図る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 史跡上野国分寺跡における発掘調査成果について、HP・リーフレットの改訂による情報発信、学校教育や生涯学習での活用促進に向けた広報を実施(年間見学者数：22,948人) 「保存活用計画」を策定し、史跡の保存と活用方針についてまとめた。 	
<p>(6) 日本古代史の授業において、古代東国文化の学習が円滑に行われるよう教員研修を推進する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 教員向け埋蔵文化財講座の受講生募集に際し、学校への情報提供と参加の依頼を積極的に実施 ○参加教員：13名 	
<p>(7) 埋蔵文化財調査センターにおける教員や市町村文化財担当者向けの専門講座の内容を充実する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 教員向けコース：金井東裏遺跡の調査成果や東国文化副読本を授業で活用するための講座を開催 市町村担当者向けコース：埋蔵文化財関連事務や、発掘調査の方法等について解説する講座を開催 ○参加人数：29人 	

<p>(8) 文化財の国、県指定等の取組 ① 県文化財保護審議会による県内文化財の調査検討を計画的に進め、文化財の保存整備を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物専門部会等6部会の活動により、県内の文化財調査を進め、県文化財保護審議会の審議を経て、重要文化財1件・史跡2件指定（伊勢崎市の石山観音の大鯉口、安中市の後閑3号墳・下増田上田中1号墳）。 ・県費補助金により保存整備事業を支援（安中市不動寺の仁王門、桐生市彦部氏屋敷等の保存修理） 	進捗
<p>② 古墳総合調査や金井東裏遺跡出土の甲着裝人骨等の詳細調査等、文化財の新たな価値の発見や磨き上げに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳総合調査 ○昨年度増刷した報告書の有償販売を開始。約1,200冊を販売。 ○スマホアプリを活用した情報発信を実施 ○学校教育での活用に向けた古墳学習プログラムを作成 ・金井東裏遺跡甲着裝人骨等 ○出土品やレプリカを全国巡回展や発掘情報館で展示 	進捗
<p>(課題) (1) 県内の歴史的価値ある文化遺産に関する学びを推進し、郷土に誇りを持たせること。 (2) 文化財に関する知識の普及や広報活動等において本県の古代東国文化を積極的に発信していくこと。 (3) 文化財の活用につながるよう、文化財の保護、文化財指定、調査研究等を計画的に進めること。</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東国文化副読本を活用した授業による効果が見られた。 ○郷土に興味が増した73% ○学習前より郷土に誇りと愛着が強まった66% ・世界遺産登録を契機に、地域の文化財が世界に誇るものであるという認識が県民の中に広がる中、「校旗を作ろうプロジェクト」や「学校キャラバン」などの学習や体験を通して、子どもたちに郷土の絹遺産や絹文化に対する誇りや愛情を育む事業を実施した。 ・絵のコンクールの実施や、綿貫観音山古墳・上野国分寺跡の情報発信や校外学習の推進により、児童生徒の郷土の文化財に対する興味関心を高め、郷土の優れた文化財の存在を気づかせることができた。 ・教員向けの専門講座や埋蔵文化財調査センターの活用により、教育の場に文化財を活かす知識や方策を普及することができた。 ・一般販売を開始した古墳総合調査報告書や、一般向け冊子の販売は好調で、スマホアプリもダウンロード数が約5,000件にのぼるなど、群馬の古墳の価値や魅力を広く周知することができた。 	

達成目標	基準値(年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率(%)	H30目標年度	備考
(1) 中学校の歴史的分野の授業において、東国文化副読本を活用した学校の割合(%)	43.0 (H25)	64.8	67.8	72.6	80.5	97.0	94.7	100	
(2) 県埋蔵文化財調査センター発掘情報館の展示解説や体験学習プログラムを教育活動に利用した団体数(団体)	36 (H24) ----- 参考値 53 (H25)	57	52	52	56	44	57.1	50	【目標】数十名程度の団体が、十分な教育効果を上げられるような利用形態を考慮し、現状の受入体制から、週1回程度、年間50団体程度が適正な利用数と考え設定。

<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東国文化副読本」の授業活用割合100%を目指し、県と市町村教育委員会の連携を深めていくこと。 ・高校で、東国文化や富岡製糸場と絹産業遺産群等、地域の歴史遺産を教材として、引き続き積極的に活用する。 ・古墳総合調査や金井東裏遺跡の調査成果を、学校教育に活用しやすい形で提供すること。 ・史跡上野国分寺跡の新知見を含む発掘成果を、ガイダンス施設を中心に情報提供すること。 ・歴史博物館との連携を深め、史跡観音山古墳の見学者の増加を図ること。 ・ぐんまの近世寺社調査を進め、その魅力を郷土学習や情報発信に活かして、県民の誇り醸成と観光県ぐんまの推進につなげること。 	<p>平成31年度/令和元年度の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村教育委員会との連携を深め、教員向けのモデル事業の実施などにより、副読本の活用を図る。 ・総合教育センターにおける経験者研修を通して、日本古代史の授業において地域の歴史遺産を活用するようその推進を図る。 ・昨年度作成した古墳学習プログラムを基に実践授業と研究協議会を行い、その内容を含めて冊子にまとめ、県内の小学校等に配布する。 ・スマホアプリを活用し、古墳現地や資料館等の見学を促す取組を行う。 ・史跡観音山古墳、史跡上野国分寺跡等の見学を促す取組を行う。 ・ぐんまの近世装飾寺社建築や伝統文化の魅力について、多言語パンフレットやアプリを作成するとともに、シンポジウムを開催して情報発信を図る。
--	--

基本施策1 時代を切り拓く力の育成
取組の柱③ 国際的視点に立ち、自らの考えを発信できる力を育成する

取組6	国際理解教育の充実	担当所属	義務教育課 高校教育課 総合教育センター
30年度個別評価	「達成」・「進捗」	7項目 / 7	
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の実績	
(1) 講師が自身の海外生活体験等を紹介する「小・中学生のための国際理解講座」を一層活用する。		・30年度受講者数：6校（小学校1校133人、特別支援学校5校114人） （29年度：小学校1校142人、特別支援学校4校133人） ※国際戦略課が主催	進捗
(2) 総合的な学習の時間や外国語活動の時間における異文化への理解や多文化共生等に結び付く実践例を周知する。		・実践事例について情報交換・情報提供を実施 ○県指導主事会議 「総合的な学習の時間」部会 「外国語活動・外国語」部会 ○市町村が実施する研修会等	進捗
(3) コミュニケーション能力や異文化理解の育成に結び付くようなALTの活用を進める。		・群馬県英語教育フォーラム（外国語指導助手の指導力等向上推進協議会を兼ねる）を開催 ○外部講師による異文化理解に関する基調講演、ALTを活用した授業の在り方について協議を実施 ○参加ALT203人、日本人教員134人 ・県立高等学校等に24名のALTを配置	進捗
(4) 県内の公立私立高校に在籍し留学を希望する生徒を対象に、留学に係る経費補助等の支援を行う。		・高校生留学促進事業で短期派遣4名の留学に係る経費を補助（1人6万円）	進捗
(5) 県内高校における姉妹校交流等の海外研修を推進する。		・県内高校26校（延べ数）が海外研修を実施 ○参加生徒数：464名	進捗
(6) 国際理解をテーマとした講演、留学幹旋団体からの説明、留学を体験した生徒からの報告、個別相談会等を実施し、高校における留学機運を高める。		・中学生・高校生及び保護者を対象にぐんま留学促進フェアを開催 ○参加人数：42名	進捗
(7) 小・中・高校の教員を対象に、外国語教育を通じて自国と外国の文化理解を深めるための内容を研修講座に取り入れる。		・ALTと小・中・高の英語教員との合同研修講座、外国語教育の充実に係る研修講座（小・中・高の初任者研修・経験者研修、指定研修及び希望研修）を実施。	達成
(課題)		(成果)	
(1) グローバル人材の育成を目的とする国際理解教育について、県内各学校への一層の広がりを持たせること。 (2) 「群馬県国際戦略」と結び付く東アジア諸国に関する国際理解教育を推進すること。 (3) 異文化理解を推進するため、高校生の留学等の一層の促進を含めた国際交流を推進すること。		・「群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業」の8つの指定校において、国際理解に関する題材を扱った授業を公開したことで、国際理解教育を推進することができた。 ・留学経費補助、ぐんま留学促進フェアの実施により、県内高校生の留学機運を高めることにつながった。	

達成目標	基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 総合的な学習の時間で「国際理解」をテーマに取り組んでいる小・中学校の割合 (%)	44.9 (H25)	47.0	42.1	40.6	43.2	37.3	▲50.3	60	【目標】新たにおよそ70校(県内35市町村の小中1校ずつ)が取り組めることになるよう、基準年度から15%程度の増加を設定。 【進捗分析】小学校における英語教育の中で国際理解教育を扱っているため、総合的な学習においては、国際理解教育以外の取組を行っていると考えられる。
(2) 高校生の海外研修者数及び留学者数(人)	313 (H24) ----- 参考値 278 (H25)	392	371	544	471	513	229.9	400	【目標】基準年度より各校1~2名増で設定。

今後の課題	平成31年度/令和元年度の方向
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の小学校新学習指導要領の全面実施に向けて、小中学校の英語教育の中で国際理解教育に関する題材を系統的に扱い、小中連携の視点から国際理解を推進すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「英語4技能スキルアップ事業」の指定校と英語教育アドバイザー教員の配置校において、国際理解に関する題材を扱った授業を公開し、小中学校の連続した学びの中で、国際理解を深める授業の在り方について示すことで、国際理解教育の推進を図る。

基本施策1 時代を切り拓く力の育成
取組の柱③ 国際的視点に立ち、自らの考えを発信できる力を育成する

取組7	豊かな語学力の育成を目指した外国語教育の推進	担当所属	義務教育課 高校教育課 総合教育センター 県立女子大学
30年度個別評価	「達成」・「進捗」	10項目 / 11	
計画に記載された主な取組内容		平成30年度の取組実績	
(1) 小・中学校における効果的な英語カリキュラムを開発し、モデル校での試行・実践を行い、全県に普及させる。		・県内すべての小中学校に配付した群馬版小学校英語教育カリキュラムを小学校では授業案として活用、中学校では小中連携の視点において活用。	進捗
(2) A L T (外国語指導助手) や英語に堪能な地域人材を効果的に活用した小学校英語の授業を行う。		・英語教育フォーラム (外国語指導助手の指導力等向上研修会を兼ねる) を開催 ○参加者: A L T 203人、日本人教員134人 ○外部講師による異文化理解に関する基調講演、A L T を活用した授業の在り方について協議を実施	進捗
(3) 小・中・高校における英語教育の円滑な接続を図るため、各校種の授業を見合う機会を増やす。		・「群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業」指定校公開授業を実施 ○参加者数 195名 ○授業の質の向上を目指し、小、中、高の教員による協議の実施 ・英語教育アドバイザー教員 (EAT) による小学校での公開授業を実施 ○年間実施回数 8回	進捗
(4) 英検等の外部検定試験を活用して児童生徒の英語力や課題等を分析し、それらを指導の改善に生かす。		・「群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業」指定校において4技能型外部試験を実施 ○実施校数 8校 ○実施回数 1回 (中2で実施) ○目的 実践による成果を測る指標として実施	進捗
(5) 英語を用いてできることを明確にするために、小・中・高校で一貫した到達目標 (CAN-DOリスト) の作成と運用に係る実践研究を推進する。		・県内の中学校のCAN-DOリスト作成率: 100% ○「群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業」指定校の公開授業より具体的なCAN-DOリストの活用方法を普及 ・昨年度、英語指導力向上事業の一環で作成した、高校の「パフォーマンステストアイデア集」を増刷。各種研修講座で活用。 ・教科科目研修において、持参した各学校の外国語活動・外国語のCAN-DOリストを活用し、バックワードデザインで単元を通じた授業を構想。 ・英語教育研究協議会において、「CAN-DOリスト」の改善と活用について協議 ○公立高校及び中等教育学校68校が対象	進捗
(6) 県立高校にA L T を配置し、T T 等の活動を通して生徒が生きた英語に触れたり、実際に英語を使ったりする機会を充実する。		・県立高等学校等に24名のA L T を配置	進捗
(7) 外国語を使う機会の飛躍的増加、幅広い教養や問題解決力等の国際的素養を身に付けさせる教育を行うスーパーグローバルハイスクールの指定を受け、グローバル人材の育成に取り組む。		・スーパーグローバルハイスクール指定校の中央中等教育学校において、グローバル人材育成のための課題研究を実施 ○30年度: スーパーグローバルハイスクール指定終了 実施報告書完成	達成
(8) 国際的な大学入学資格を得ることができる教育プログラムである国際バカロレアについて、情報収集等に努め、導入の可能性を検討する。		・他県の指定校状況について、情報収集	着手済
(9) 教員の英語力・指導力強化を図るため、英検、TOEFL、TOEIC等の外部検定試験を受験するよう促す。		・各種研修講座において、国の動向等を踏まえながら、外部検定試験の積極的受験を推奨している。 ・英語教育フォーラムや「群馬の中学生英語4技能スキルアップ事業」研修会において積極的受験を周知 ・指導力向上研修で積極的受験を促進	進捗

<p>(10) 小・中・高校の英語学習の一層の充実を図るため、教員の教科指導力や英語運用能力を向上するための研修を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校英語科教員指導力向上研修の実施 ○H30年度：68校参加（H29年度からH32年度の4年間で実施、対象は全公立高校及び中等教育学校英語科教員） ・「群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業」研修会を実施 ○参加者 第1回：221名 第2回：167名 ・英語教育アドバイザー教員を10名配置 ○全県の小学校への訪問指導や公開授業を実施し、小学校教員の指導力を向上 	進捗
<p>(11) 英語教育における県内の小・中・高・大連携を推進する「群馬フレームワーク」を提唱し、英語教育講演会等を開催する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育フォーラムにおいて小・中・高の教員とALTが同じ講演を聴き、授業の在り方について協議した。 ・高等学校では、英語で行われる授業が定着しており、英語の指導が改善されている。 ・ALTの配置により、生徒の英語コミュニケーション能力育成の取組を推進した。 ・教育段階の枠を越えて情報交換や議論の場を提供することができ、連携の必要性が意識されてきている。 	進捗

<p>(課題)</p> <p>(1) 小・中・高校における英語教育の円滑な接続を進めること。</p> <p>(2) グローバル化の進展に対応できる人材を育成するための英語によるコミュニケーション能力を向上すること。</p> <p>(3) 授業中、生徒が実際に英語を使用する機会を一層充実すること。</p> <p>(4) 英語担当教員の英語力・指導力を更に強化すること。</p> <p>(5) 英語教育における小・中・高・大学の連携を推進すること。</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業」指定校公開授業を校種を超えて公開することで、小・中・高の接続を推進することができた。 ・ALTの配置や英語教育の充実により、生徒のコミュニケーション能力育成を推進した。 ・高等学校では、英語で行われる授業が定着しており、英語の指導が改善されている。 ・ALTの配置により、生徒の英語コミュニケーション能力育成の取組を推進した。 ・教育段階の枠を越えて情報交換や議論の場を提供することができ、連携の必要性が意識されてきている。
--	--

達成目標		基準値 (年度)	H26	H27	H28	H29	H30	進捗率 (%)	H30 目標年度	備考
(1) 中学校において実用英語検定3級以上相当の英語力を有する生徒の割合 (%)	中3	37.1 (H25)	39.5	40.4	39.8	43.3	40.9	29.5	50 (中3)	【目標】国の「第2期教育振興基本計画」(H25～H29)における成果指標に準じて設定。 【進捗分析】英検3級以上を実際に有する生徒の割合は、26.8%(平成29年度)から、27.3%(平成30年度)に増加し、英語学習に対する意識は向上していると捉えている。
(2) 県立高校において実用英語検定準2級相当以上の英語力を有する生徒の割合 (%)	高3	36.2 (H25)	35.6	49.4	34.9	36.8	40.3	17.2	60 (高3)	【目標】文部科学省の目標値が50%であるが、生徒の英語力向上を重視し、より高い目標を設定。
(3) 中学校において授業の半分以上の時間、生徒が英語で活動している割合 (%)		48.8 (H25)	57.5	78.1	81.3	79.1	84.7	115.1	80	【目標】県内のほぼ全ての中学校における目標の達成が確認できるよう、基準年度から30%程度の増加を設定。

<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領で求められる授業を実施できるよう、教員の指導力を向上させること。 ・言語活動を中心とした授業を実施できるよう教師の英語力を向上させること。 ・高等学校においてALTの配置を拡充し、話すことや書くことに係る指導や評価を更に充実させること。 	<p>平成31年度/令和元年度の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領で求められる授業を具体的に示した、「はばたく群馬の指導プランII」を活用した授業を公開し、指導力の向上を図る。 ・総合教育センターと連携し、義務教育課のALTアドバイザーを講師とし、英語力向上を目的とした研修を小中学校の教員を対象に実施する。 ・高校英語科教員指導力向上研修を継続し、英語によるコミュニケーション活動を中心とした授業例を周知すること。
--	---

基本施策1における自己点検・評価結果

基本施策1（取組1～7）に対する自己点検・評価の概要

柱1 社会的・職業的自立に必要な能力を育成する

小・中学校において、キャリア教育全体計画の作成状況が100%となり、計画策定当初の目標を達成することができた。公立高校全日制及び公立専門高校全日制におけるインターンシップに参加したことがある生徒の割合については、いずれも目標達成とはならなかったものの、着実に増加している。今後も引き続き、発達段階に応じたキャリア教育を充実させていく必要がある。

柱2 文化芸術教育と郷土に誇りを持てる学びを推進する

中学校の歴史的分野の授業において「東国文化副読本」を活用した学校の割合が97%となり、計画策定時と比べて大きく前進した。今後も100%を目指し、市町村教育委員会との連携を深めていく必要がある。

柱3 国際的視点に立ち、自らの考えを発信できる力を育成する

「群馬の中学生 英語4技能スキルアップ事業」を開始し、指定校における公開授業等を通して国際理解教育を推進することができた。今後は、令和2年度の小学校新学習指導要領の全面实施に向け、小中学校の連続した学びの中で国際理解を深める授業の在り方を示すなど、より一層国際理解教育の推進を図ることが課題である。

成果が上がっている主な達成目標

○小・中学校におけるキャリア教育全体計画の作成状況（取組1）

【小】77.0%(H25) → 100%(H30) [目標は小・中ともに100%]
【中】79.3%(H25) → 100%(H30)

取組実績 キャリア教育ガイドブック「群馬のキャリア教育」（H29作成）の普及・推進したほか、群馬県キャリア教育研究大会を新たに実施した。

○中学校の歴史的分野の授業において、東国文化副読本を活用した学校の割合（取組5）

43.0%(H25) → 97.0%(H30) [目標は100%]

取組実績 「東国文化副読本モデル授業」（公開授業）の実施、教員向け専門講座の開催

○高校生の海外研修者数及び留学者数（取組6）

313人(H24) → 513人(H30) [目標は400人]

取組実績 県立高校等へのALTの配置、留学費補助、高校生留学説明会の実施

伸び悩んでいる主な達成目標

○公立高校全日制における高校3年間でインターンシップに参加したことがある生徒の割合（取組1）

34.6%(H24) → 41.4%(H30) [目標は50%]

今後の対応 就業体験の成果を、企業関係者や生徒・教員が共有するための「Gワークチャレンジ推進フォーラム」等の取組を継続する。また、「群馬県版インターンシッププログラム」の効果的な運用について検討する。

○住んでいる地域の歴史や自然について関心がある小・中学生の割合（取組4）

【小6】66.3%(H25) → 64.1%(H30) [目標は小6・中3ともに80%]
【中3】41.0%(H25) → 44.7%(H30)

今後の対応 尾瀬学校や芳ヶ平環境学習をはじめとする群馬県の多様な自然を生かした学習の充実を図る。

基本施策1に対する「群馬県教育委員会の点検・評価委員会」の主な意見

評価できる点

- ・特別支援学校高等部卒業生の一般就労後のフォローアップが充実しており、職場への定着を図ることができている。
- ・「ぐんまのキャリア教育」に、児童生徒が社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる4つの能力（※）の育成について具体的に記載されており、実践的な内容となっている。

課題

- ・児童生徒に、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる4つの能力（※）が身につけているかどうかの検証について、検討すること。
- ・インターンシップについては、全日制高校普通科の生徒のニーズ把握に努めながら、生徒が参加しやすいようプログラムの工夫を図ること。

※「4つの能力」・・・「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」のこと。子どもたちが社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力として、文部科学省が例示している。